

平成二十一年三月

蟹江町歴史民俗資料館

# 年報

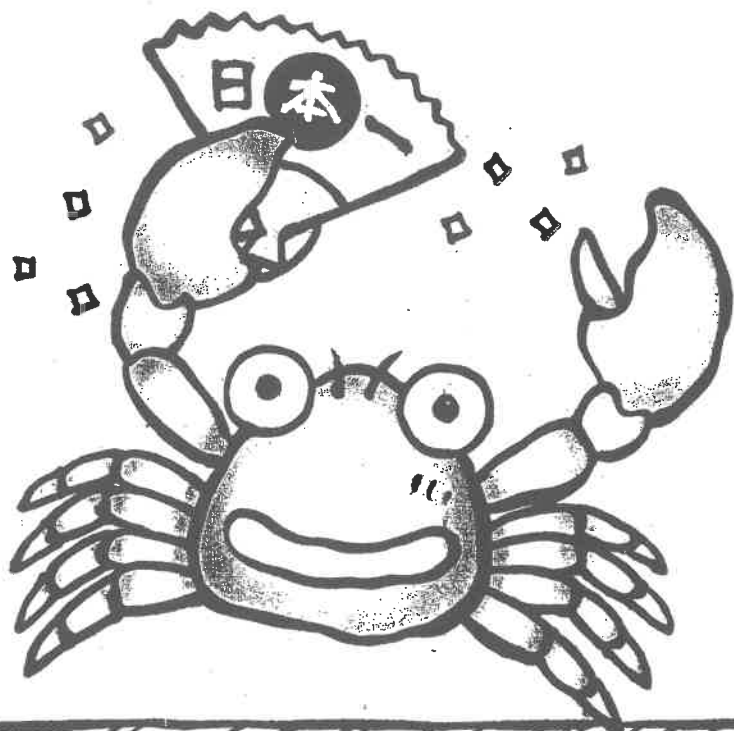
第二十九冊

# 目次

一 「沿革誌」より	1
二 事業概要	2
三 資料の収集・保管	3
四 展 示	10
五 調査・研究	14
六 情報提供	15
七 教育普及	16
八 庶務報告	22
九 文化財保護	24

蟹江町歴史民俗資料館特別展示

# 特別展 10年のあゆみ



平成19年11月11日(日)～12月9日(日)

(月曜・祝日休館) AM9:00～PM5:00 入場無料

場所 蟹江町産業文化会館 1階 企画展示室  
(蟹江町大字今字蟹江浦23番地4)

主催 蟹江町教育委員会

問い合わせ先 生涯学習課歴史民俗係(歴史民俗資料館)

TEL/FAX 0567-95-3812

## 特別展開催にあたり

蟹江町歴史民俗資料館では、年2回ほど定期的に特別展を実施してまいりました。その都度、故郷蟹江町の歴史及び民俗に関する資料の提供を町民の皆様を始めとする関係各位のご理解とご協力をいただきまして多くの成果を上げることが出来ました。ここにお礼申し上げます。

さて、平成8年度に開催いたしました「近代蟹江の群像展」から昨年度の「館藏品に見るふるさと蟹江の文化展」までちょうど10回にわたる歴史関係の特別展を開催してまいりましたが、来年度（平成20年度）で歴史民俗資料館が開館30周年を迎える節目の年度を迎えます。これを前に、当年度の特別展のテーマとして過去10年間の特別展で、当館が皆様ご協力により収集致しました歴史関係資料について過去の歩みとともに展示公開することにいたしました。

この10年間は、当館が推進してまいりました「郷土文化購入事業」により資料が充実しますとともに、特別展開催を契機として、小酒井不木ご遺族の小酒井美智子様、治様、江戸川乱歩ご遺族の平井憲太郎様、長年当町の文化行政に貢献されました飯田年男様を始め、多くの方から貴重な資料の寄贈をいただきました。

また、特別展開催時には、町内の「生涯学習まちづくり」団体の皆様からも展示作業へのボランティア協力もいただきました。当歴史民俗資料館の事業に対する行政と住民との「協働参画」の機会を作り上げ、当館事業活動の特色として確立させるものになりました。

今回の特別展では、蟹江町出身である探偵小説家小酒井不木を始めとする郷土の文化人関係資料や町名の由来のもとになった蟹関係資料、「東海の潮来」として水郷の生活文化にかかわる資料、「農と食文化」関係資料、鉄道関係資料などを中心に展示を行います。

今回の特別展開催により「ふるさと蟹江」の一層の理解を深めていただくことを期待いたしまして、ここにご挨拶申し上げます。

平成19年11月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

## 郷土の文化人に関する展示（平成8年度・9年度・18年度開催）

蟹江町は古くから海部地域第二の商業地域として栄えた地域であり、教育文化についても熱心な土地柄で、教育文化に携わった僧侶、その地域を代表する庄屋・商家を中心に教養を得ながら文化を嗜むものが多かったようです。その代表が千葉智城、滝承天、山田玉田、森本三鑑ら宗教家であり、蟹江本町村の蟹江家、山口家でした。特に山口家九代当主山口一角は、自ら国学、茶華道を習得し、栗田直政や森村宣民を始めとする多くの文化人と親交していました。

その後、明治期に教育制度が確立されるとともに文化活動も盛んになっていくようになり、教育・文化の充実の結果、小酒井不木（医学者・探偵小説家）、林稔亭・宇佐美江中・川瀬麿士（画家）、黒川巳喜・紀章（建築家）、神田蘇華・飯田樓山（書道家）、神田鑑蔵（実業家）ら多くの文化人を輩出こととなりました。

平成6年度から当館では、蟹江町出身の文化人に関する資料の購入を始めとする収集活動事業を開始いたしました。昭和60年（1985）10月に発行された「蟹江町10年の歩み」の中で掲載された郷土の文化人を中心に資料の所在等調査を始めました。関連資料を所蔵する町民の皆様を始め多くの方から当館の趣旨を理解いただき、平成8年度「近代蟹江の群像」展を開催する運びとなりました。この段階では、当館に所蔵されている郷土文化資料は、探偵小説家小酒井不木、宗教家山田玉田、森本三鑑など、まだ数点程度に留まっている状態でしたが、数多くの資料を提供いただきました。特に山田玉田、森本三鑑両氏に関する資料は、西之森蓮行様からの全面的なご協力のもと、両氏に縁のある四日市市観音寺様からの資料借用についても立ち会っていただき多くの資料を提供していただける事になりました。特別展会場が館内3ヶ所に別れての大々的な特別展となりました。

平成9年度は、前年度の経験のもと、明治から昭和初期戦前期の世相の移り変わり、同時期に活躍した小酒井不木を中心とした「明治・大正・昭和の世相と郷土の文化人」展を開催、岐阜県明智町（現恵那市）大正村にある青島新聞資料文庫に所蔵されている事件・出来事などの号外新聞を時代背景の推移が理解出来るように借用し、小酒井不木の愛読書・研究書を一括所蔵する愛知医科大学付属図書館にもご協力をいただきました。

郷土文化人の収集事業を開始してから約10年が経過した平成17年度は、「館藏品に見るふるさと蟹江の文化」展を実施、蟹江町出身の文化人の他、戦中戦後の一時期、当町を訪れて水郷情緒の豊かな景観を「東海の潮来」と絶賛した吉川英治（小説家）を始めとする当町に縁のある川合玉堂・鬼頭頌三郎（画家）、荒川豊蔵（陶芸家）の作品も公開いたしました。

蟹江町歴史民俗資料館特別展示

# 昭和のくらしⅡ



昭和17年ごろ舟入ニツ屋橋付近

**平成20年2月2日(土)～3月2日(日)**

(月曜・祝日休館) 午前9時～午後5時

主催 蟹江町教育委員会

問い合わせ先 生涯学習課歴史民俗係(歴史民俗資料館)

電話 0567-95-3812

## 開催にあたって

昭和から平成に元号が変わり20年が過ぎようとし、昭和の時代も遠くなりつつあります。

そこで、昭和を振り返る特別展として蟹江町歴史民俗資料館では平成18年度に「昭和の暮らし」を開催し当時の生活道具を中心に展示紹介させていただきました。開催中には多くの方に見学していただき、ご意見・ご感想だけでなく、関連資料や関連情報の提供も多数いただきました。

今回の特別展ではこれを受け、新たに提供いただいた資料を公開するとともに、当時の生活道具だけではなく戦争・災害・経済発展など昭和の世相やそれとともに歩んだ蟹江町の歩みについてもとりあげ、人々の暮らしがどのように変化していったかを紹介したいと思います。

なお、開催にあたり関連の資料や情報を提供していただいた皆様にはこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

平成20年2月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

## 昭和の初め

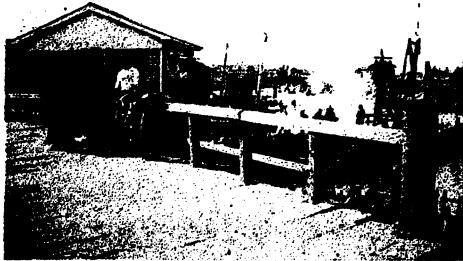
昭和の初め—今から80年ぐら  
い前の蟹江町はどんな様子だった  
のでしょうか。

当時、蟹江川の河口の舟入には  
蟹江港があり、たくさんの船が行  
き来していました。

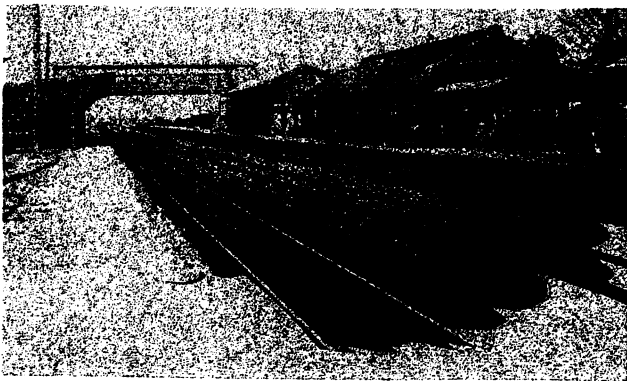
舟入では、漁業で生活をする人  
たちが多く、伊勢湾に魚をとりに  
出かける船がたくさんありました。  
また、蟹江本町にはたくさんの貨  
物船が出入りしていました。

蟹江町には多くの川や水路があり、このころは車よりもまだ舟で移動したり、荷物を運んだりする方が便利でした。蟹江川に沿って酒蔵、灰問屋、材木屋などが建ち並び川を中心に町が発展していました。

昭和の始めは、陸路では関西鉄道（今のJR関西線）がひかれ明治28年から蟹江駅が開設されていましたが、大きな道路はまだありませんでした。しかし、昭和9年になると国道一号線が開通、昭和13年には関西急行（今の近畿日本鉄道）の蟹江駅ができ、東西の陸路がどんどん整備されていきました。蟹江のまちはますます発展し、蟹江本町には商工業施設だけでなく旅館や劇場などの娯楽施設もあり、町外からもたくさんの人が集まりにぎわっていました。



昭和初期の蟹江漁港



昭和初期 蟹江停車場(現 JR 蟹江駅)